

## 英米の俗信 (1)

小泉 直

外国語教育講座

### The Superstitions of Britain and the United States (1)

Naoshi KOIZUMI

Department of Foreign Languages, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

#### 1. 俗信の定義

最初に俗信とは何かについて考えてみよう。一般的には俗信よりも迷信という言葉の方が広く使われているが、日本語に関する主な辞書を参照すると、迷信に対して次のような定義が与えられている。

(1) ①誤って信じること。誤信。②現代の科学的見地から見て不合理であると考えられる言伝えや対象物を信じて、時代の人心に有害になる信仰。

(『日本国語大辞典』)

(2) 迷妄と考えられる信仰。また。道理にあわない言伝えなどを頑固に信ずること。その判定の標準は常に相対的で、通常、現代人の理性的判断から見て不合理と考えられるものについていう。

(『広辞苑』)

(3) ①科学的根拠がなく、社会生活に支障を来すことの多いとされる信仰。ト占・厄日・丙午に関する信仰など。②誤って信じること。(『大辞林』)

(4) 俗信のうちで、合理的根拠のないもの。一般には社会生活上実害を及ぼし、道徳に反するような知識や信仰をいう。(『大辞泉』)

いずれの定義も「科学的・合理的根拠を欠く知識や信仰」という点で共通しており、一般の人々の見解とほぼ一致すると思われる。しかし、迷信に与えられている定義は、それだけに留まらず、社会生活に支障・実害を及ぼすものなど、対象を否定的なものに限定している。これに対し、俗信については、同じ辞書が次のような定義を与えており、そこには否定的な意味合いが含まれていない。

(5) 民間のいいならわしとして伝えられる、超人的な力の存在を信じ、それに対処する知識や技術。予兆、ト占、禁忌、呪術、妖怪、憑物などがある。(『日本国語大辞典』)

(6) 民衆の間で行われる宗教的な慣行・風習・呪術・うらない・まじない、幽霊・妖怪の観念など。このうち、実際に社会に対して害毒を及ぼすものを

迷信と区別する場合がある。(『広辞苑』)

(7) 日常生活を左右するものとして、世間で広く信じられてきた言伝えや迷信。禁忌・予兆・ト占・呪術・諺・憑き物・妖怪など。「病気についての一」(『大辞林』)

(8) 自然現象などに対する観察・経験・解釈から起こり蓄積された知識。予兆・禁忌・呪術・ト占・憑き物・妖怪など。(『大辞泉』)

本稿では、社会生活に対する肯定的影響・否定的影響という区別は特に問題としないので、以下の議論では、この点について中立的な「俗信」という言葉の方を用いることにする。

上記の定義から、日本語の辞書における迷信と俗信の捉え方はわかった。しかし、本稿の目的は英米における俗信の種類とその内容を明らかにすることにある。それでは迷信・俗信に対応する言葉である *superstition* に対して、英語の辞書はどのような定義を与えているのであろうか。以下に主なものを挙げておく。<sup>1</sup>

(9) Unreasoning awe or fear of something unknown, mysterious, or imaginary, esp. in connexion with religion; religious belief or practice founded upon fear or ignorance.

(The Oxford English Dictionary)

(特に宗教との関係において、未知のもの、不可解なもの、想像上のものに対する不合理な畏怖の念や恐れ。恐れや無知に基づく宗教的な信仰や慣習)

(10) the belief that particular events happen in a way that cannot be explained by reason or science; the belief that particular events bring good or bad luck

(Oxford Advanced Learner's Dictionary)

(道理や科学によっては説明できない方法で特定の出来事が起こるという信仰。特定の出来事が幸運や不運をもたらすという信仰。)

(11) a belief that some objects or actions are lucky or

unlucky, or that they cause events to happen, based on old ideas of magic

(Longman Dictionary of Contemporary English)  
 (物や行為の中に縁起の良いものと悪いものがあるという信仰。あるいは、魔法についての古い考え方に基づいて、そのような物や行為が出来事を引き起こしているという信仰。)

- (12) belief which is not based on human reason or scientific knowledge, but is connected with old ideas about magic, etc.

(Cambridge Advanced Learner's Dictionary)  
 (人間の理性や科学的知識には基づかず、魔法などについての古い考え方に係わる信仰。)

以上の定義からわかるように、英語の辞書でも、俗信を道理や科学によって説明することのできない信仰と見なしている。したがって、本稿では便宜上、俗信を次のように規定しておくことにする。

- (13) 科学的・合理的根拠を欠くにもかかわらず特定の国や地域で信じられてきた慣行・風習・言い伝え・呪術・予兆・禁忌・ト占など。

## 2. 類義語

英語には superstition の他に、似たような意味を持つ言葉として jinx がある。両者はどのように使い分けられているのだろうか。以下に同じ辞書における jinx の定義を挙げておく。

- (14) A person or thing that brings bad luck or exercises evil influence; a hoodoo, a Jonah.

(The Oxford English Dictionary)  
 (不運をもたらす、あるいは、有害な影響を及ぼす人や物。縁起の悪いもの [人]、疫病神。)

- (15) bad luck; sb/sth that is thought to bring bad luck in a mysterious way

(Oxford Advanced Learner's Dictionary)  
 (不運。不可解な方法で不運をもたらす人や物)

- (16) someone or something that brings bad luck, or a period of bad luck that results from this

(Longman Dictionary of Contemporary English)  
 (不運をもたらす人や物、あるいは、それによって生じる不運な期間)

- (17) bad luck, or a person or thing that is believed to bring bad luck

(Cambridge Advanced Learner's Dictionary)  
 (不運、あるいは、不運をもたらすと信じられている人や物)

以上の定義から、jinx という言葉は否定的な影響を及ぼす人や物だけに限定されて使われていることがわかる。

## 3. 日用品

俗信の対象となる事物は実に幅広く多様である。本稿では、紙幅の都合上、日用品の中から特によく使われるものを取り上げて解説することにする。

### 3.1 ベッド (Bed)

ベッドをよくない側から下りると運の悪い1日を送ることになる、というのは恐らく最もよく知られた俗信の1つであろう。よくない側とは伝統的に左側と考えられている。悪魔が天から追放される前、神の左側に座っていたからである。不運を避ける唯一の方法は、服を着る時に靴下と靴を右から履くことである。多くの人はベッドに入った側と反対の側から下りるのも縁起が悪いと信じている。

ベッドを置く方向も極めて重要である。太陽が天を移動する経路に沿って東西に配置するのがよい。南北に配置すると悪夢にうなされる。月明かりに照らされる場所に置くのもよくない。さらに、ベッドを天井の梁と交差するように置くのも縁起が悪い。

ベッドの準備は、方法の如何にかかわらず一気に済ませなければならない。そうしないと一日中遅延に悩まされることになる。また、オックスフォードシャー州 (イングランド南部) では、ベッドを整えるのに3人の人が加わると、1年以内に家の中に死人が出ると言われている。

特定の日にマットレスをひっくり返してはならない。日は地域によって異なるが、一般に金曜日と日曜日は縁起が悪いとされている。

ミッドランド (イングランド中部地方) では、床ずれを防ぐのに、毎日ベッドの下に新鮮な泉の水をバケツ2杯置いておくのがよいと信じられている。しかし、どんな事情があるにせよ、そのために冷まし湯を使つてはならない。悪魔の怒りを買うことになるからである。

藁で作った十字架をベッドの4隅に置くと悪夢を防ぐことができる。

ベッドの上に帽子を置くと、そのベッドを使っている人の死を願うことになる。

### 3.2 箒 (Broom)

箒にまつわる最もよく知られた俗信は、魔女が空を飛ぶのに使ったというものである。箒が魔女の移動手段と見なされるようになったのは14世紀においてである。この俗信は、多くの儀式において、魔女が高く跳びながら、箒の柄を足の間に挟んで踊ったことに由来するようである。

多くの国で、新しい箒は、ほこりを家から掃き出す前に何かを家の中に掃き入れなければならないと信じられている。そうしないと、運がほこりとともに戸外

に出て行ってしまふからである。また、日没後に掃除をしてはならない。幸せを追い出すことになるか、彷徨う魂を傷つけることになるからである。同様に、家族の死の前触れとならないよう、日曜日と聖金曜日 (Good Friday)<sup>2</sup>には掃除を控えなければならない。

ヨークシャー州 (イングランド北東部) では、女の子がうっかり箒の上を跨ぐと、妻になる前に母になると言われている。

もし子供が箒を手にとって床を掃き始めたら、それは予期せぬ客が来ることの前兆である。

新しい箒、少しのパンと塩は家庭内の幸福を保証してくれる。また、塵を玉にして部屋の中央にまとめておけば、それが不運から身を守ってくれる。

箒については他に次のような俗信もある。家の中に死人がいる時は箒を使ってはならない。家の中がきれいになるまでは、家の外を掃くために箒を使ってはならない。午後に2階を掃いてはならない。客が帰った後、しばらくの間、客がいた部屋を掃除してはならない。さもないと、その客が戻ってきてしまう。箒を借りたり、貸したり、ばらばらにしたり、焼いたりしてはならない。新居に古い箒を持ち込んではいけない。

### 3.3 蠟燭 (Candle)

蠟燭は暗い時間を明るくしてくれる唯一の手段であったため、物を見るためだけでなく、神聖な儀式の間、油断のない悪霊を追い払うためにも用いられてきた。例えば、次のような俗信が知られている。悪霊が幼児に取りつくことがないように、子供が誕生する時には蠟燭を灯さなければならない。新婚夫婦が邪眼 (the evil eye)<sup>3</sup>の目に留まることがないように、結婚式では蠟燭を灯さなければならない。悪魔が近づいて来て死にかけている者の魂を捕らえることがないように、死に際では蠟燭を灯さなければならない。

明るい火花を散らす蠟燭は、火花と反対側に座っている人に手紙が届く印である。蠟燭の芯の周りに集まる油は蠟涙で、家族の中に死人が出ることの前兆である。

もし蠟燭になかなか火がつかなければ、それは嵐が近いことを示している。隙間風があるとは思えないのに、蠟燭の炎が揺れるのは、悪天候の前触れである。蠟燭の青い炎は死の予告であり、霊がそばにいることを表している。

蠟燭の炎が小さくなり、消えてしまうのは縁起が悪い。しかし、誤って消してしまうのは結婚が近いことの兆しである。

3本の蠟燭を次から次へと灯し、病人のベッドのそばに置くとよいという俗信もある。もし3本目の蠟燭が最初に消えたならば、その人は息を引き取るとされる。2本目なら、病気は長引き、1本目なら、すぐ治ることが期待される。この方法は人の計画の未来を予知

するのにも利用されてきた。

イングランド北部では蠟燭が愛のお守りとしても使われている。火のついた蠟燭を恋人に見立て、次の文句を唱えながら、2本のピンを突き通す習慣がある。

(18) 'Tis not the candle alone I stick, But (lover's name)'s heart I mean to prick Whenever he/she be asleep or awake, I'll have him/her come to me and speak.

(私が刺すのは蠟燭だけではない。私が刺したいのは (恋人の名前) の心。あの人が寝ていようが起きていようが、ここに呼び出して話をしてもらう。)

炎がピンに達するまでに念願の恋が成就すると信じられている。

蠟燭に関しては他に次のような俗信もある。別の蠟燭から火をつけてはならない。暖炉の火から火をつけてはならない。この禁を犯す者は、貧困のうちに死ぬことになる。音を立てて消してはならない。吹き消すか揉み消すかしなければならぬ。1本のマッチで3本の蠟燭に火をつけてはならない。また、同じ部屋で3本の蠟燭を同時に灯してはならない。

### 3.4 紙巻きタバコ (Cigarette)

紙巻きタバコに関する俗信の中で、最もよく知られているのは、1本のマッチで3本のタバコに火をつけるのは縁起が悪いというものである。この俗信はボーア戦争 (Boer War)<sup>4</sup>の時に生まれ、第1次世界大戦中に広まった。狙撃者は最初の1本に火がつけられた時に相手の居所を見つけ、2本目で狙いを定め、3本目で発砲して致命傷を負わせると言われている。もともと聖職者が同じ点火用灯心で祭壇にある蠟燭に火をつけることができるのは2本までである、という禁忌に由来するという説もある。

### 3.5 時計 (Clock)

人の寿命を刻むことから、時計に関する俗信の多くは死と関係している。例えば、アメリカの田舎では、今でも、ある人が大切にしていた時計は、その人が亡くなると止まると言われている。また、多くの人は、誰かが家の中で亡くなると、すぐに家中の時計を止めなければならない、そして葬式が終わるまで巻いてはならないと信じている。これは魂が永遠の世界に入ったことを表明するためである。

イギリスには、長い間止まっていた時計が、突然時を告げたり、チャイムが何度も鳴ったら、家族に死人が出るという俗信がある。また、ウェールズでは、教会の鐘が鳴っている間に町の時計が時を告げたら、教区内で近いうちに火事が起こると信じられている。さらに、サマセット州 (イングランド南西部) では、聖書の一節が読まれている間に教会で時計が鳴ったら、

教区内に死人が出るかもしれないと言われている。

結婚式や葬式の間時計のチャイムが鳴るのは縁起が悪いとされている。近いうちに似たような式がもう1度起こることになるからである。

時計が13回鳴るのは不吉の印で、悪魔を呼び出していると言われている。

### 3.6 衣服 (Clothes)

服を着たまま繕ったり縫ったりしてもらおうと運が悪くなると言われている。また、新しい服やコートを着たらすぐ右ポケットにお金を入れた方がよい。その服やコートを着ている間、ずっとお金に困ることになるからである。

服を着る時は、必ず右手、右足から始めなければならない。また、一般に、誤って服を裏返しに着るのは縁起が悪いとされている。<sup>5</sup>さらに、ボタンの掛け間違えは災いを呼ぶと広く信じられている。しかし、服を脱いで始めからやり直せば、その災いから逃れることができる。

靴下やストッキングに穴を見つけたら、その日は運がよい。だが、次の日も同じ靴下やストッキングを履くと運が悪くなる。

アメリカの俗信によると、もし女性が幸せで物事が順調に進む春を迎えられれば、イースターの日に3つの新しい物を身につけるとよい。アメリカ人は、また、服を焼いて穴を開けてしまったら、それはどこかで誰かがその人について嘘をつく兆しであると信じている。

### 3.7 硬貨 (Coin)

硬貨を泉や噴水に投げ入れれば願い事が叶う。これは硬貨にまつわる最もよく知られた俗信である。硬貨それ自体は紀元前10世紀にまで遡る。硬貨はもともと銀か鉄でできていたため、魔法や魔術を防ぐ力があると信じられてきた。特に聖餐式 (Holy Communion)<sup>6</sup>でもらう硬貨はありがたいと考えられている。リューマチに苦しむ人が2, 3枚もらって、それで患部を擦ると、たちどころに治ると言われている。

一般に、お釣りに穴の開いた硬貨を受け取ると幸運に恵まれると信じられている。

ケント州 (イングランド南東部) では、畑を耕している間に硬貨を掘り出したら、すぐに両面に唾をかけないと悪魔に呪われると言われている。

硬貨には他に次のような俗信もある。ペニー銅貨を見つけて捨ると幸運に恵まれるが、捨わないと不運に見舞われる。台所のピンにペニー銅貨を入れておくと運がよくなる。新郎が花嫁に硬貨を贈り、それを結婚式で靴の中に入れておくと、幸せな結婚生活が送れる。ポケットに曲がった硬貨を入れておき、新月ごとに取り出して唾をかけると、幸運がもたらされる。新

月を見たら、すぐにポケットの中の銀貨を裏返し、願い事をするといよい。どんな願い事も叶えられる。

### 3.8 櫛 (Comb)

プラスチックが使われる前、櫛はしばしば生き物から作られていた。それゆえ、櫛は日用品であると同時ににお守りでもあった。特に鼈甲の櫛は神経質な人を静め、その知性を向上させると言われている。

死者に対して使われた櫛は生きている人が使ってはならない。そうしないと、近いうちに命を失うか、禿ることになる。

イギリスでは、赤ん坊の歯が生えるまで、母親はその子の髪を櫛で梳かしてはならないと教えられる。この教えを破ると、櫛の歯が折れるたびに、赤ん坊も歯を失うことになる。

毛のついた櫛やブラシは捨ててはならない。さもないと、魔女が見つけて、魔法をかけるために利用するかもしれない。

### 3.9 ドア (Door)

象徴性の高いドアは、生と死に係わる俗信を数多く生み出してきた。家のドアと窓は、いつの時代も、魂が自由に行き来できる通路と考えられてきた。子供が生まれる時、あるいは人が死にかけている時はドアを開けておきなさい、という俗信が世界中に存在する。

家中のドアを開けたままにしておくのは縁起が悪いとされる。また、裏口を閉めずに玄関のドアを開けてはならないと言われている。これらは悪霊が家の中に簡単に入ってしまうことに対する古代人の恐れから来ている。

洗礼式や葬式から戻った時は、家を出る時に使ったドアと違うドアから入らなければならない。もし家に1つしかドアがなければ、窓から入るのが望ましい。しかし、客は、入って来た時と同じドアから出て行かなければならない。そうしないと、家の幸運を持ち去ってしまうことになるからである。

幸福な結婚を保証するために、花嫁が両親の家を出て行く時は、戸口の上り階段を石鹸と水で洗って、足跡を消さなければならない。また、花嫁が新居に入る時は、自ら敷居を跨いではならない。新郎に抱きかかえられて運び入れてもらうのがしきたりとなっている。

### 3.10 蹄鉄 (Horseshoe)

馬が交通手段として使われなくなったにもかかわらず、蹄鉄は依然として最も幸運な品物の1つである。それは恐らく、神聖な火を使って魔術的な金属である鉄 (青銅や石を砕く力と火に耐える能力を備えていることから古代より魔力を持つと信じられてきた) から作られるためであろう。あるいは、横向きにすると、三

日月<sup>7</sup>の形に似ているからかもしれないし、キリストの象徴であるCの文字になるからかもしれない。

もし路上で蹄鉄を見つけたら、その人は運がよい。イングランドの北部地方では、それに唾をかけて、願い事をしながら左肩越しに投げると望みが叶うと言われている。また、拾った蹄鉄は家に持って帰って、戸口に釘で打ちつけると、家の中にいるすべての者に幸運がもたらされると信じられている。もし蹄鉄が灰色の雌馬の後脚から取られたものであれば、最高に運がよくなる。戸口に固定する蹄鉄の向きについては、意見が分かれるが、多くの人は尖った先を上向きにした方が運を捕えておくことができると考えている。さらに、蹄鉄の釘から作られた指輪が幸運をもたらすと信じている人たちもいる。

スコットランド沿岸では、漁船のマストに蹄鉄を打ちつけておけば嵐や座礁を防ぐことができるという俗信が広く受け入れられていた。そのため、トラファルガーの海戦<sup>8</sup>で有名なネルソン提督も自分の船のビクトリー号のマストに蹄鉄を釘づけにしていた。

アメリカでは、特にエンターテイメントの世界において、新しく事業を始める人に、成功を祈って蹄鉄の形をした花束を贈るのが習慣となってきた。

### 3.11 ナイフ (Knife)

狩や生贄のために用いられたナイフは長い間強力なお守りと考えられてきた。したがって、2本のナイフが偶然テーブルの上で交差したら、それは不運の前兆であるとともに悪意の印と見なされる。また、食後にナイフとフォークを交差させて置くことは、マナーが悪いだけでなく、悪運を招くとも言われている。

ナイフを贈り物としてもらったら、災厄を追い払うため、あるいは、友情の崩壊を防ぐため、小銭を渡して買ったことにするとよい。

食事中にナイフを落としても、食事が終わるまで拾ってはならない。また、恋愛中はテーブルからナイフを払い落とさないよう気をつけなければならない。さもないと、その恋愛は失敗に終わるか、望ましくない客の訪問を受けることになる。

ナイフを使ってパンを炙ってはならない。

スコットランドの俗信によると、ポケットにナイフを入れておけば、夜寝ている間に妖精に魂を連れ去られるのを防ぐことができる。

ケント州（イングランド南東部）では、窓の敷居の下に置かれたナイフが悪魔を追い払ってくれると言われている。

テーブルの上でナイフを回転させ、刃の先がたまたま向いてしまった人がいたら、その人は他の者よりも先に死ぬと信じられている。

自分のナイフを忘れたら、自分で取りに行かないと不幸になる。

新しいナイフで切ったパンの最初の一切れを犬に与えれば、そのナイフの紛失を防ぐことができる。

腹痛の人は、白い柄のついたナイフを使って数日食事をすればすぐによくなる。

### 3.12 梯子 (Ladder)

梯子の下を歩いてはならないという俗信は世界でも広く知られ、よく守られているものの1つである。その起源ははっきりしないが、ある人たちにとって、立てかけてある梯子は絞首台を意味する。したがって、梯子の下を歩くことは自分で自分を処刑することになる。またある人たちは、梯子と壁と地面とで三角形を形作ることになり、これが三位一体<sup>9</sup>を象徴すると言う。それゆえ、梯子の下を歩くことは三位一体を侮ることになり、自分自身を悪魔の手の中に委ねることになる。

もしうっかり梯子の下を歩いてしまったとしても祟りを避ける方法がいくつかある。人差し指と中指を交差させて十字を作り、犬が目に留まるまでそのままにしておけばよい。また、自分の靴に唾を吐き、唾が乾くまで放っておくという減免法もある。

アメリカ人は、黒猫が梯子の下を通ると、次にその梯子を登る人は不運な目に会うと信じている。梯子の横木の間を踏んだり通ったりすることも、十字を形作ることになるので、不幸をもたらすと考えられている。

### 3.13 鏡 (Mirror)

最も古く依然として広く信じられている俗信に、鏡を割ると7年間<sup>10</sup>不運に見舞われるというものがある。この俗信の起源は定かではないが、ガラスに映った人の姿は実際にはその人の魂であり、もし映ったものがこなごなになれば、魂も同じように破壊され、その人自身がすぐに亡くなるか、あるいは亡くなった時に天国へ行けなくなるという古代人の考えに由来するようである。しかし、あまり広くは知られていないけれども、イギリスには鏡を割ることによって引き起こされる不運を防ぐ方法がある。ガラスのすべての破片を注意深く集め、川もしくは流れの速い小川に持って行って投げ込むのである。そうすれば、すべての不運は持ち去られることになる。一方、アメリカでは意図的に鏡を割ることは縁起が悪いと考えられていない。たまたま割ったとしても、5ドル紙幣を取り出し、同時に十字を切れば、不運は避けることができる。

もし鏡がひとりで割れたならば、その所有者は親友を失うと言われている。また、鏡がはっきりとした理由もなく落ちて割れたならば、家族の中に死人が出ると信じられている。さらに、蝋燭の明かりの中で、鏡の中の自分の顔を見るのは縁起が悪いとされる。

多くの国で、死んだ人の部屋の鏡が布で覆われてい

るのを見るのは珍しいことではない。そのような時に自分の姿を鏡に映す者は、同じように死ぬことになるからである。

ダーラム州（イングランド北東部）の俗信によると、子供は12ヶ月になるまで鏡で自分の姿を見てはならない。この禁を破ると長生きできないと考えられている。

花嫁が結婚式に行く前に自分の花嫁姿を見るのは縁起が悪いとされる。しかし、結婚式から戻った夫婦が鏡の前に並んで自分たちの姿を見ると、幸運が保証されると信じられている。

### 3.14 お金 (Money)

サクラグモ (money spider) と呼ばれる小さな金色の生き物をポケットに入れておけば、貧乏にならないという古い俗信がある。また、サクラグモを服の上にいるのを見つけたら、それはやがて富を得る前兆であるとされる。

2つ以上のポケットにお金を入れてはならない。さもないと、お金をすべて失うことになる。

水玉模様に服を着た人を見たら、お金が入ってくると思っている人たちもいる。

### 3.15 写真 (Photograph)

未開人の間では、写真を撮ってもらうのは悪い前兆もしくはタブーと考えられている。人の魂が写真に捕らえられてしまうと信じているからである。そのような人たちにとって、写真を片づけるのは魂を片づけるのと同じである。悪魔に悪用されるのを許すことになるからである。

別のよく知られた俗信に、婚約中の2人が一緒に写真を撮ってもらうと、結婚できなくなるというものもある。また、動物と一緒に写真を撮ってもらうのも縁起が悪いとされる。その動物は魔女が変身したものであるかもしれないからである。

3人が一緒に写真を撮ると、真ん中の人が死ぬと言う人もいる。

もし誰かに呪いをかけたければ、その人の写真を壁に裏返しに貼るか、あるいは上下逆さまにして貼ればよい。両方行えば魔力はさらに強くなる。

### 3.16 絵 (Picture)

もし壁に掛けてある絵が落ちると、家族の誰かが1ヶ月以内に死ぬことになる。この俗信はもともと肖像画に端を発するもので、ある人物の肖像画が落ちると、その人は1ヶ月以内に死ぬと言われていた。肖像画は描かれた人物の本質の一部を捕らえていると考えられていたからである。

### 3.17 ピン (Pin)

人々が自分で服を作っていた時代、ピンは今よりもずっとよく使われていた。先が尖っていて、金属でできているため、魔術と魔除けの両方に使われるようになった。

次のような古い押韻詩にあるように、ピンを見つけたら、先が見つけた人の方を向いていない限り、拾わなければならない。

(19) See a pin and let it lie,

Sure to rue it by and by.

(ピンを見て放っておくと、

やがて必ず後悔する。)

しかし、先が見つけた人の方を向いていたら、そのまましておいた方がよい。

結婚式の間、花嫁衣裳に1本でもピンが刺さっていたら縁起が悪いとされる。花嫁付添い人は花嫁のベッドを用意する時、衣装からすべてのピンを注意深く取り去らなければならない。しかし、結婚後に見つける曲がったピンは花嫁にとって素晴らしいお守りとなる。また、妊娠した女性が針を見つけると女の子を授かり、ピンを見つけると男の子を授かると言われていた。さらに、女性が妊娠したら、ピンを先から拾ってはならない。さもないと、子供が生まれた後、乳が出なくなる。

イングランド北部の人々は、ピンを人に貸すのは縁起が悪いと信じている。ただし、要求を拒否することはせず、相手に背を向けて、自分で見つけてもらうようにする。

教帷子を作るのに使ったピンは、上着の内側に縫いつけておけば、恐怖に対するよいお守りとなる。しかし、他の縫い物のために使うと、死を招くことになる。

### 3.18 靴 (Shoe)

新婚夫婦の車の後部バンパーに古い靴やブーツを結びつけるという習慣は、今では結婚式と結びついた、なくてはならない伝統の1つである。その起源ははっきりしないが、何世代にもわたって新婚夫婦に幸運を保証してくれると信じられてきた。車が発明される以前は、新婚夫婦に靴を投げつけるという慣わしがあった。しかし、この行為は幸運を手に入れるためのものではなく、花嫁を両親の保護と権威の下から花婿の下へと譲渡することを象徴するものであった。花婿は花嫁の新しい所有者になったことの証として、婚礼の夜、花嫁の靴を1足ベッドの足元に置いた。

ブーケを投げるという行為が一般的となる前は、花嫁が靴の片方を花嫁付添い人に向けて投げつけていた。それを取ることができた者が、その年のうちに結婚することができると思われていた。

朝起きたら、幸せな一日が送れるように、靴を右足から履かなければならない。もし間違った足から履い

てしまったら、不幸を引き寄せることになる。また、朝、靴を履いたまま、くしゃみをしたなら、悪霊を追い払うために、すぐ唾を吐かなければならない。

未婚者は正月に靴を空中へ放り投げることによって結婚の見込みを予測することができる。もし靴が右側を上にして床に落ちれば年内の婚約が保証される。また、もし落ちた時に、靴が投げた者の方を向けば結婚が期待できる。しかし、もしドアの方を向けばしばらくの間待たなければならぬ。

イギリスの多くの地域では、新しい靴がキュッキュッと鳴ったら、それは所有者が代金の支払いをまだ済ませていないことの証であると考えられている。

イギリスのノッティンガムでは、暖炉で古い靴を焼くと、家の中の疫病を防ぐことができると信じられている。また、テーブルの上に靴やブーツを置くと、死もしくは揉め事を招くとされている。

### 3.19 靴紐 (Shoelace)

もし靴紐が解けたら、誰かがその人のことを話しているという俗信がある。左の靴紐が解けたら悪口を言われ、右の靴紐が解けたら、お世辞を言われていると信じられている。アメリカには解けた靴紐について次のような押韻詩がある。

(20) 'Tis a sure sign and true,

At that very moment

Your true love thinks of you.

(それは確かな印で本当のこと、  
まさにその瞬間、あなたの本当の恋人が、  
あなたのことを思っている。)

他の人の靴紐を縛ってあげている時に願い事をする、叶う見込みが非常に高くなるとされている。

靴紐に結び目を見つけるのは縁起がよい。しかし、左右で靴紐の色が違うのは縁起が悪い。一方が茶色でもう一方が黒い靴紐はとりわけ縁起が悪い。茶色が墓地の地面を表し、黒が死を象徴するからである。

### 3.20 階段 (Stairs)

階段を上る途中で誰かに会って追い越すのは縁起が悪い。相手が通り過ぎるまで踊り場で待つべきである。もし追い越すのが避けられないのなら、人差し指と中指を交差させて十字を作るとよい。この俗信は、人々が狭くて薄暗い階段を上り下りしていて、背後から攻撃される危険があった時代に起源があると考えられている。

多くの人は階段を下りている時につまずくのは縁起が悪いと信じている。しかし、上っている時につまずくのは縁起がよく、近いうちに家の中で結婚式があることの予兆であると言われている。

### 3.21 テーブル (Table)

よく知られた俗信の1つは明らかに最後の晩餐と関係している。それは13人が同時にテーブルについてはいけないというものである。誰か1人が立ち去るか、もう1人招かなければならない。さもないと食事をしている人のうちの誰か1人が死ぬことになる。

独身女性がテーブルの上に座る、あるいは、テーブルの隅に座ると、その女性は結婚できなくなると言われている。同様に、婚約者と話をしている時にテーブルに座るのも結婚の妨げとなる。

子供はテーブルの下を這ってはいけない。それは死が近いことの前兆となる。もし這ってしまったら、災厄から逃れるために、もう一度反対方向へ這うとよい。

食事が終わった後、テーブルから立ち上がろうとする時に椅子を倒したら、それは食事中ずっと嘘をついていたことの証となる。

イギリスでは、テーブルクロスを広げた時に、中央にダイヤモンドか棺の形をした皺を見つけたら、それは家族の中に死人がでることの予兆であると信じられている。

### 3.22 傘 (Umbrella)

屋内で傘を開くことは、その人だけでなく残りの家族にも不運をもたらすとされている。この俗信は、傘がもともと東洋の王室において日除けとして用いられていたことに由来するようである。太陽が照っていない場所で傘を開くことは、太陽に対する意図的な侮辱になると考えられるからである。他に、天気の良いのに屋外で傘を開くと雨になるという俗信もある。

一般に傘は不吉な品物と見なされているので、贈り物にしてはならない。また、ベッドの上に置いてはいけない。

うっかり傘を落としても、誰か他の人に拾ってもらわなければならない。特に独身女性の場合はそうである。もし自分で拾うと一生結婚できなくなる。

### 注

- 1 Zolar (1989)によれば、superstitionという言葉は「上」を意味するsuperと「立つ」を意味するstareというラテン語に由来する。ローマ時代、接近戦で生き残った運の良い人々にはsuperstitesという称号が与えられた。つまり、superstitionの語源となる戦いの生存者というのは、幸運にも殺された人の上に立つことができた者という意味である。
- 2 復活祭の前の金曜日。イエスの十字架の上での死を記念する日で、教会暦上最も厳粛な祭日。教会の飾りつけはすべて取り外され、鐘は終日鳴りを潜めたまま、時に鳴ることはあっても吊鐘に似た調べを告げる。(『イギリス祭事・民俗事典』pp. 169-70参照)
- 3 じっと見つめるだけで、他人の健康や幸福を悪化させる力のこと。昔から、緑色や青い色の目を持つ人は厳しい目つ

きでにらんだだけで、敵に害を与えることができると考えられてきた。

- 4 イギリスが南アフリカにあったトランスヴァール共和国とオレンジ自由国に対して植民地化を巡って争った2次にわたる戦争 (1899-1902)。
- 5 昔の人は自分の家に死人が出ると、その霊がさらに多くの人を道連れにするのではないかと恐れた。そこで彼らは、死霊に本人であることを見破られないために、服を裏返し、しかも前うしろ反対に着た。
- 6 洗礼式とともに、すべての教会において最も重要視されている sacrament (神の恩恵にあずかる儀式)。新約聖書では〈主の晩餐〉、〈パンをさく〉ことと記されている。新約に続く時代には〈エウカリスティア〉(eucharistia = 感謝)と一般に呼ばれたが、それは神の創造とキリストによる救との恩恵に対する〈感謝〉の礼拝という意味であった。6世紀以来西方教会では〈ミサ〉の名が公式に用いられ、これが今日にいたるまでローマ・カトリック教会の用語となっている。(『キリスト教大事典』p 612参照)
- 7 多くの星を従えた三日月は、天の軍勢 (= 天使) を導く光の最高神を表す。(『イメージ・シンボル事典』p 149参照)
- 8 1805年10月21日、ジブラルタル海峡の北西にあるスペインのトラファルガー岬沖で行われたイギリスとフランス・スペイン連合軍の海戦。ホレーショ・ネルソン指揮のイギリス艦隊が勝利し、ナポレオン1世の海上制覇ならびにイギリス侵略の野望は挫折した。(『ブリタニカ国際大百科事典』p 823参照)
- 9 三位一体はキリスト教の神観念の最も特徴的なもので、教理の中で最も基本的、中心的な玄義 (奥義) の1つである。神はその本性においては1つであり、この1つの神の中に3つの位格 (persona, つまり父と子と精霊) があることをいう。(『哲学事典』p 551参照)
- 10 7年間という数字は、もともと古代ローマにおける2つの俗信に由来する。1つは、人間の命は7年ごとに更新するという考え方である。もう1つは、月の位相が1週間ごとに変化することから来たもので、月は大洋の潮の干満を支配するだけでなく、人間の盛衰をも支配するという考え方である。

## 参考文献

- Bachelor, J. F. and C. de Lys (1954) *Superstitious? Here's Why!*, Harcourt, Brace and Company, Inc., New York.
- Braysher, C. M. (1999) *Collins Gem Superstitions*, Harper Collins, London.
- Lasne, S. and A. P. Gaultier (1984) *A Dictionary of Superstitions*. Prentice-Hall, Inc. New Jersey.
- Pickering, D. (1995) *Cassell Dictionary of Superstitions*, Cassell, London.
- Radford, E. and M. A. Radford (1969) *Encyclopaedia of Superstitions*, Greenwood Press, New York.
- Waring, P. (1978) *A Dictionary of Omens and Superstitions*, Souvenir Press, London.
- Zolar (1989) *Encyclopedia of Signs, Omens and Superstitions*, Souvenir Press, London.

## 辞書・辞典・事典

- Cambridge *Advanced Learner's Dictionary*, Second edition, Cambridge Univ. Press, Cambridge.
- Longman Dictionary of Contemporary English*, Fourth edition with Writing Assistant, Longman, London.
- Oxford Advanced Learner's Dictionary*, Seventh edition, Oxford Univ. Press, Oxford.
- The Oxford English Dictionary*, Second edition, Clarendon Press, Oxford.
- 『イギリス祭事・民俗事典』チャールズ・カイトリー著 渋谷勉 訳, 大修館, 東京.
- 『イメージ・シンボル事典』アト・ド・フリース著 山下圭一郎 他訳, 大修館, 東京.
- 『キリスト教大事典』改訂新版, 教文館, 東京.
- 『広辞苑』第六版, 岩波書店, 東京.
- 『大辞泉』第一版, 小学館, 東京.
- 『大辞林』第三版, 三省堂, 東京.
- 『哲学事典』初版, 平凡社, 東京.
- 『日本国語大辞典』第二版, 小学館, 東京.
- 『ブリタニカ国際大百科事典』初版, ティビーエス・ブリタニカ, 東京

(2011年9月14日受理)